

令和7年12月26日

函館開発建設部

函館開発建設部総合評価審査委員会の審議概要について

～第38回総合評価審査委員会を開催しました～

令和7年10月21日に第38回函館開発建設部総合評価審査委員会を開催しましたので、審議概要について、別紙のとおりお知らせします。

函館開発建設部は、発注する工事・業務の技術提案に対し、中立かつ公平な審査・評価を確保するため、学識経験者から意見を聴取することを目的として、函館開発建設部総合評価審査委員会を設置しています。

今回の委員会では、令和6年10月1日から令和7年3月31日までに契約した工事53件、業務14件が対象となり、そのうち工事4件、業務1件を抽出して審議が行われました

(対象工事・業務)

- ・一般国道229号 乙部町 鳥山トンネル工事
- ・一般国道228号 木古内町 亀川橋補修外一連工事
- ・今金南地区 濁川第1工区区画整理工事
- ・砂原漁港 ー5.0m岸壁建設その他工事
- ・後志利別川 河川管理施設監理検討業務

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 函館開発建設部

技術管理課 課長 宗山 徳史 (電話 0138-42-7685)

技術管理課 課長補佐 高 浩行 (電話 0138-42-7685)

函館開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/hk/>



別紙

第38回函館開発建設部総合評価審査委員会審議概要

開催日及び場所	令和7年10月21日（火）函館開発建設部 4階 災害対策室		
委員	平沢 秀之（函館工業高等専門学校 教授） 藤森 康澄（北海道大学大学院水産科学研究院 教授） 渡辺 力（函館工業高等専門学校 教授） <div>(五十音順)</div>		
議 事	(1) 第38回審議対象工事(R6. 10. 1～R7. 3. 31 契約53件)概要について (2) 第38回審議対象業務(R6. 10. 1～R7. 3. 31 契約14件)概要について (3) 抽出工事の審議（4件） (4) 抽出業務の審議（1件）		
委員からの意見・質問、それに対する回答等			
意見・質問		回 答	
(1)第 38 回審議対象工事（ R6. 10. 1～R7. 3. 31 契約 53 件）概要について ・特になし (2)第 38 回審議対象業務（ R6. 10. 1～R7. 3. 31 契約 14 件）概要について ・特になし 以下、(3)及び(4)について、入札参加者の技術提案及び評価に係わる内容については、機密保持の観点から記載しておりません。 (3)抽出工事の審議（4 件） ① 一般国道 2 2 9 号 乙部町 鳥山トンネル工事 【公告・評価について】 ・技術提案の評価について、生産性向上に関する提案のうち『切り羽作業における省人化・省力化に関する提案』について、C社とD社における評価結果に差が生じた理由は如何に。		・質問に対して回答し、了解をいただいた。	

委員からの意見・質問、それに対する回答等	
意見・質問	回 答
<p>・本工事は『B I M／C I M活用工事（発注者指定型）』となっているが、発注図面は全て三次元データで作成されているのか。</p> <p>・技術提案における『確実性』の評価基準について、設定方法は如何に。</p> <p>② 一般国道２２８号 木古内町 亀川橋補修外一連工事</p> <p>【公告・評価について】</p> <p>・本工事は『地元企業活用審査型』であるが、評価基準として元請け企業が地元企業でなければならないのか、もしくは、下請け企業に地元企業が含まれていれば良いのか。</p> <p>③ 今金南地区 濁川第１工区区画整理工事</p> <p>【公告・評価について】</p> <p>・本工事の総合評価方式を『施工能力評価型の施工計画重視型』とした理由は如何に。</p> <p>・建設キャリアアップシステム活用試行工事とは如何に。</p> <p>④ 砂原漁港 ー ５．０m岸壁建設その他工事</p> <p>【公告・評価について】</p> <p>・Ｂ社について、『①自社開発技術はあるものの②当該工事に活用しない』に対し加点を行っているが何故か。</p>	<p>・全ての図面データが三次元データで作成されているわけではない。</p> <p>・質問に対して回答し、了解をいただいた。</p> <p>・元請けもしくは下請け企業が地元企業であれば評価基準を満たす。</p> <p>・現場に適した施工能力を評価し品質を向上させる観点から『施工監理能力の確認（施工計画）』の評価を重視することで、技術者の能力等をこれまで以上に発揮可能な発注方式として設定した。従来方式は施工計画の評価点として１０点を配点していたが本方式は２０点の配点となる。</p> <p>・当該システムは、作業従事者の経験をデジタル情報として蓄積していくもの。</p> <p>・①自社開発技術はあるものの、当該技術は有用な新技術ではないため、②当該工事に活用しないと記載している。入札説明書別紙ア評価の基準に記載している『当該工事関連分野における「自社開発技術がある」』に①が該当することから、０．５点の加点を行っている。</p>

<p>・施工計画の評価項目について、施工時の留意すべき事項から『屋根施設工事』を除外した理由は如何に。</p> <p>(4)業務の審議</p> <p>① 後志利別川 河川管理施設監理検討業務</p> <p>【公告・評価について】</p> <p>・業務量の目安の算出方法は如何に。</p> <p>・A社の『その他』の評価について、『1枚に収まっていないため評価しない』とした理由は如何に。</p> <p>【上記工事・業務について適切な評価と認める】</p>	<p>・本工事における主たる工事区分は一般土木となっていることから、『屋根施設工事』を除いた。</p> <p>・過年度に実施した類似業務の歩掛かりから算出している。</p> <p>・技術提案書の記載方法を入札説明書に示しているが、A社はその方法に従っていなかった。</p> <p style="text-align: center;">－以上－</p>
---	--